

事例①：「町会単位の活動展開」と「男性高齢者の活動創出」

※H28.10月末現在

■.過 程

① 連合会長兼福祉委員長と今後の地域づくりの方向性について協議

→地域の実情や状況から町会単位での活動展開を行いたい（会長）

② 生活支援コーディネーターのモデル実施をキッカケに第1回住民意見交換会を企画

→会長の思いや考えを、町会長をはじめとした役員と共有したい（会長）

会長から各町会役員や地縁組織に案内をしてもらう

③ 第1回住民意見交換会の開催（※下記に主な意見一覧あり）

→生活支援コーディネーターより「介護保険改正とこれからの地域」について講話

→これからの地域づくりについて意見交換を実施



単位自治会長・民生委員・自治連合会役員

…など24名参加

④ 会長と第1回住民意見交換会の振り返りと第2回住民意見交換会の企画

→校区内でも各団体が何をしているのかわからない。ヨコのつながりをつくりたい（会長）

第2回住民意見交換会のテーマを「ヨコのつながりづくり」として企画



⑤ 第2回住民意見交換会の開催（※下記に主な意見一覧あり）

→老人会/民生委員会/更生保護女性会/校区福祉委員会/Vo団体から活動報告と悩みの共有

悩みについて解決できそうなことを意見交換

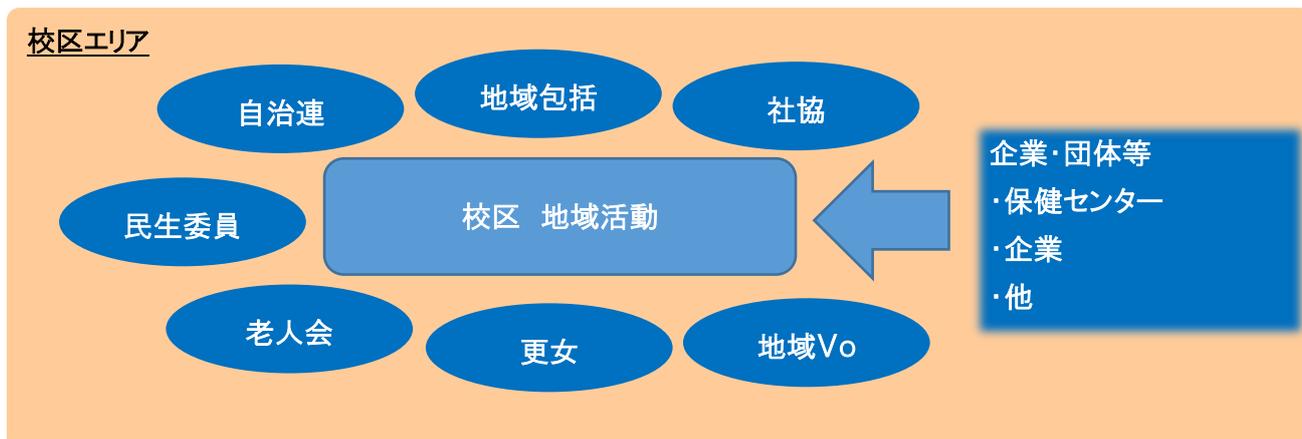
⑥ 会長と第2回住民意見交換会の振り返りと今後の地域づくりに関する企画

→「身近な通いの場づくり」と「男性の巻き込み」の2本柱で地域づくりを企画



「町会単位での喫茶活動」：各町会でプレ実施。50～100名の参加者あり

「男性が来やすい活動づくり」：11月に地元神社の清掃活動後、交流会を予定



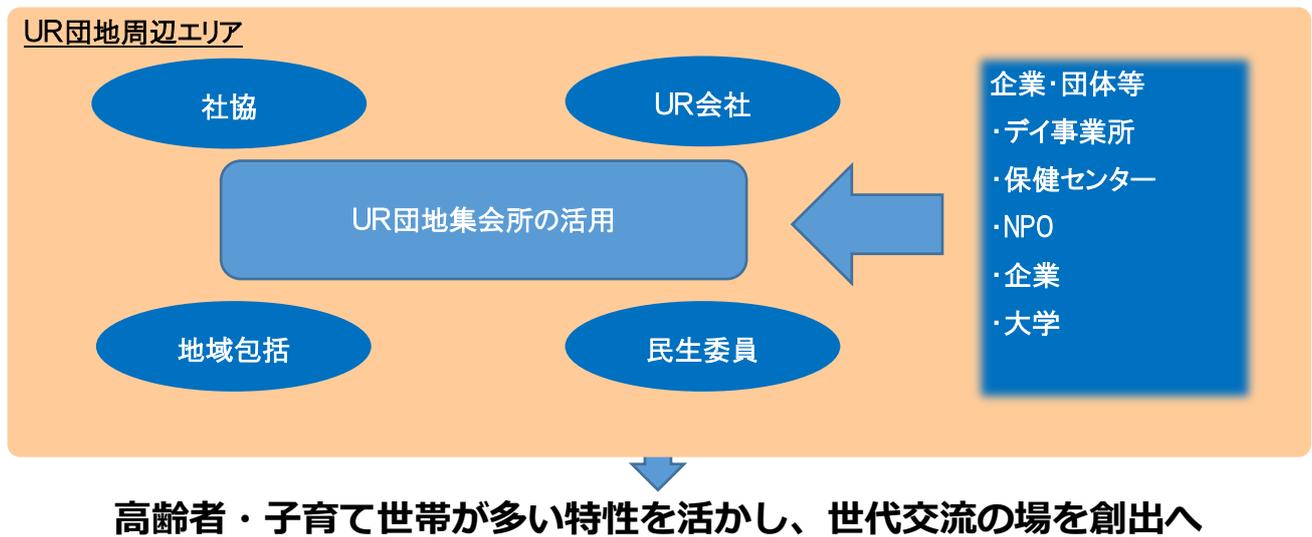
《資源開発》

事例②：「UR集会所の有効活用を切り口にした資源開発」

※H28.10月末現在

■.過 程

- ① UR管理会社とUR団地の現況と課題等について意見交換
「団地内集会所の利用率がほぼ0%。UR側としても活用してもらいたいが、相談先がない…」
- ② 包括とともに場の活用について検討
→関係機関としても団地エリアの実態把握がうまくできていないのが現状
- ③ 場の活用と今後の支援についてNPOや大学と情報交換
 - ・NPO：こども食堂モデル事業との連動を検討
 - ・大学：現場のニーズ調査等への学生の介入について検討
- ④ 校区民生委員定例会にて意見交換
→当エリアの現況と支援状況について情報共有
- ⑤ 下記のメンバーで協議体を結成し、場の有効活用とエリアの活性化について協議を予定
→場があればプログラム提供できる団体との協働も視野に入れている



～UR団地概況～

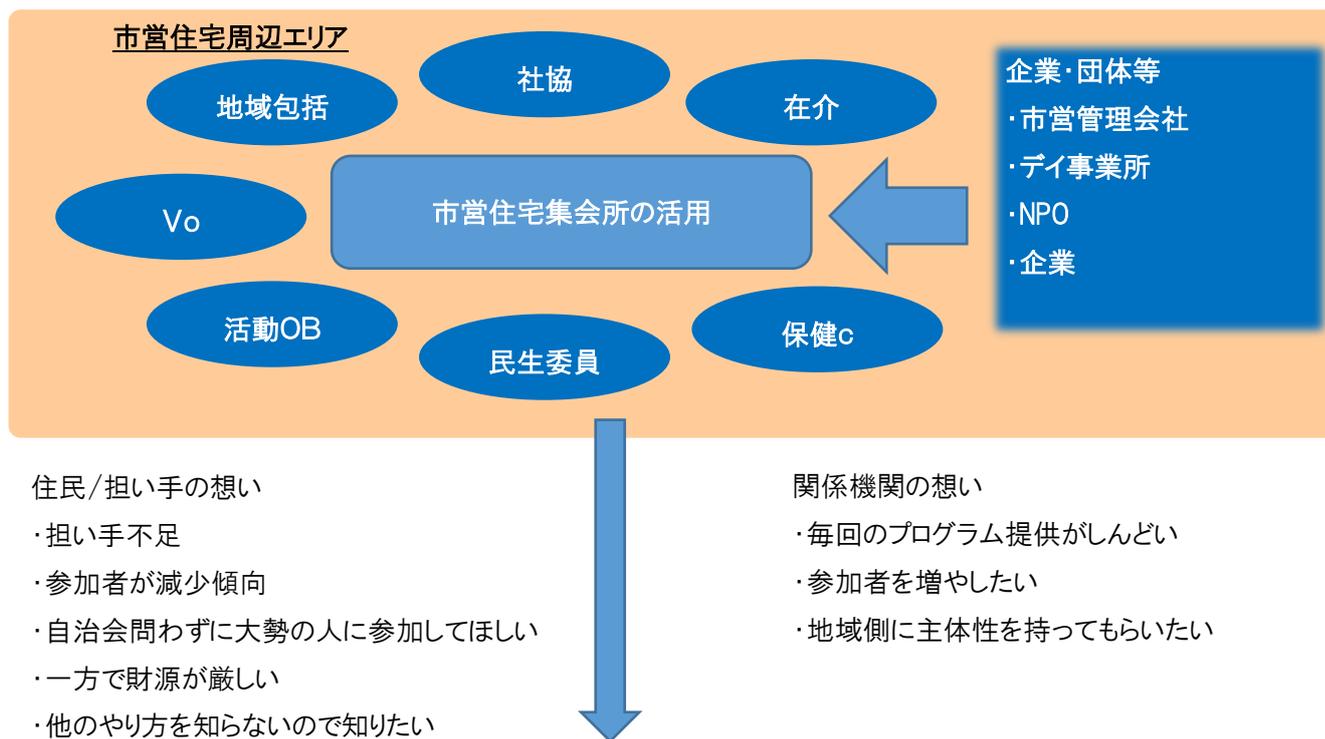
- ・720戸(入居者650戸)/自治会なし
- ・ファミリー物件
- ・高齢者253世帯(40%)
- ・担当民生委員2名
- ・最近では高齢者からの申し込みが多数ある

事例③：「市営住宅内活動の見直しと活動創出」

※H28.10月末現在

■.過 程

- ① 校区情報交換会より、保健センター/包括から活動支援について相談
- ② 市営住宅活動の担い手と民生委員へ調整
- ③ 今後の活動を考える場（協議体）を生活支援コーディネーターがコーディネート
（※下記にそれぞれの思いあり）
- ④ 住民側から出た意見を元に企業・団体への調整
場があればプログラム提供できる企業等の活用を視野に入れる
- ⑤ 下記のメンバーで今後も協議を重ね、エリアの現況にあった効果的な活動づくりをめざす



思いに伴走した結果…

民間企業等の力を活用した参加者増と、新たにふれあい喫茶活動を創出



～市営住宅周辺エリアの概況～

- ・自治会加入率 30%(60/200)
- ・H22 に市営住宅立替済み
- ・近隣に府営住宅あり

～関わり当初の状況～

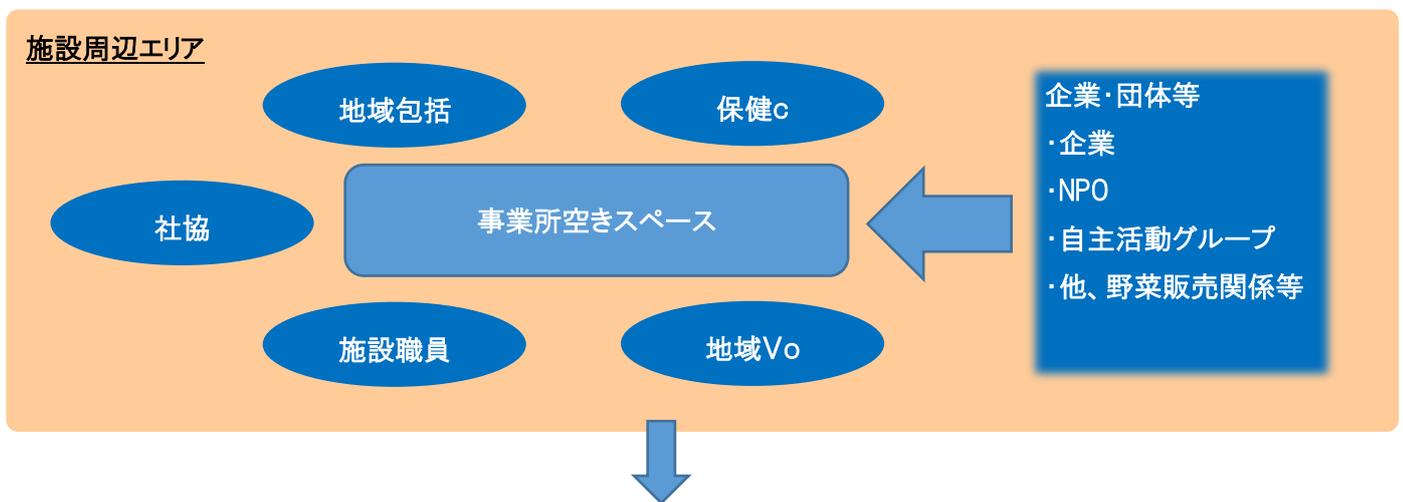
- ・現在Vo担い手2名+協力者2名
- ・関係機関が毎回プログラム提供

事例④：「事業所の空きスペースを地域のために有効活用」

※H28.10月末現在

■.過 程

- ① 施設長と介護保険改正と地域づくりに関する情報交換
→事業所内で空きスペースがあり、有効活用したい（施設長）
- ② 施設長・生活支援コーディネーター・包括職員で空きスペースの有効活用について意見交流
→地域の住民が気軽に立ち寄れる場+予防的な効果のある場/誰もが利用できる場…をコンセプトに考えていく
- ③ 可能性について情報収集
→野菜販路について確認（堺市農水産課/事業所）
→校区の学童利用状況確認（当エリアの小中学校では空きに余裕がある状況）
- ④ 地域ボランティアへの情報共有とアイデアを募集
- ⑤ 下記メンバーで空きスペースの有効活用について検討を予定
→地域協議会や地域密着型デイサービスの運営推進会議の効果的な開催も視野に入れている



11月にこども食堂（高齢者参加型）を堺市こども食堂モデル事業とコラボ実施



50名程度が利用できるスペース

《活用例～検討より～》

- ① 自主活動グループへの場所貸し
→太極拳等の場所として
- ② こどもの居場所づくり
→放課後の学習スペース等
- ③ 憩いの喫茶
→セルフサービスでの実施
- ④ 地元野菜等の販売
→集うキッカケづくり

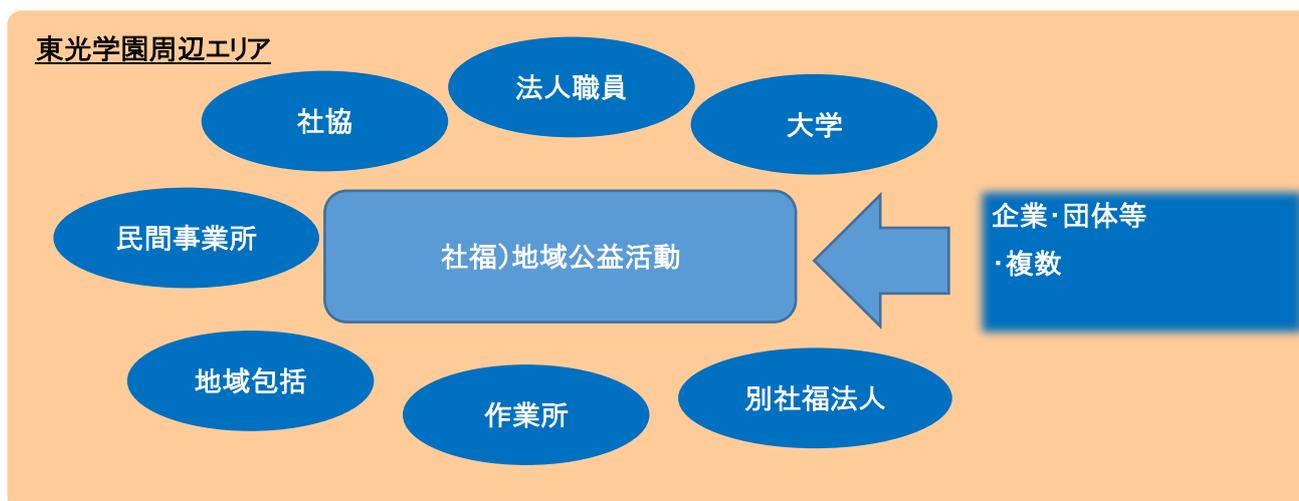
…などを複合的に開催できるようなイメージで検討中

事例⑤：「社会福祉法人/地域公益活動に絡めた活動創出」

※H28.10月末現在

■.過 程

- ① 社福法人/地域公益事業の実施に向けて、法人職員から生活支援コーディネーターへ相談
- ② 法人が主となり運営委員会を立ち上げ。生活支援コーディネーターも運営委員のメンバーとなる
- ③ 毎月1回運営会議を実施し、地域貢献の取り組みを協議
 - ・法人内の空きスペースの有効活用等について検討
- ④ 住民啓発イベントとして、5/15「ふれあいスマイルフェスティバル」を開催
 - ・地域にまずは知ってもらうことを目的に実施
- ⑤ イベント実施後の地域公益活動について、運営委員会で継続して協議を実施中



地域に根ざした施設をめざして、空きスペース等の有効活用を検討

区内の法人との横断的なネットワークを組み、新たな活動や企画推進を展開中



～5/15 ふれあいスマイルフェスティバル概況～

- ・複数の民間企業や商店とコラボ
- ・老若男女 600名以上が参加
- ・地域役員も複数参加
- ・行政まちづくり関係との協働も実施

その他/資源のタネなど（参考例）

■.新聞販売店

- ・ほっと見守りサービスやまごころサービスなど、購読者向けの自主事業を展開中
 - ほっと… : 新聞が溜まっているときに、配達員が相談機関へ連絡する仕組み
 - まごころ… : 500円で簡易な生活支援が受けられるサービス
実施者を募集し、最低賃金が支払われる仕組みを作っている
- ・新聞を使った脳トレや作り方等の講座開催が可能
- ・エリアの購読者向けの広報誌を毎月発行（9000部）

■.牛乳宅配業者

- ・遠方の家族の要望に応え、見守り目的での配達等を実施中
- ・血圧/血流/骨密度検査を出張で行っている
 - 5人以上の集まりであれば無料で出張可能

■.その他

・NPO

→場所があれば、介護予防運動「ふまねっと」のプログラム提供が可能

・食品会社

→地域貢献のための野菜販売等であれば、仕入れ値程度での提供可能

・食品会社

→食料加工品を幅広く取り扱っており、場所さえあれば提供可能

・介護事業者

→自主事業で「夢の駅」を展開（夢の駅：1日1500円で高齢者利用できる遊びの場）